



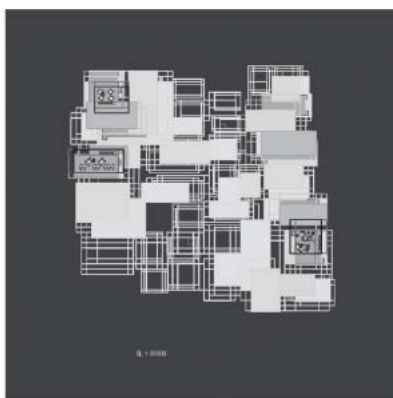
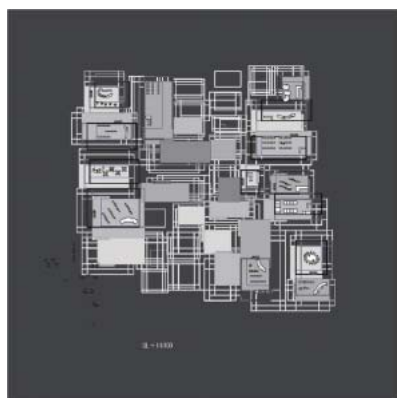
特別審査委員賞



反応する建築

山上 仁 (やまがみ じん)

千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



現代の都市は、明快な機能空間を持つことで、合理的な快適さを獲得した。しかし、分ける都市構造は、空間の個性を主張し、都市の輪郭を強くしすぎた。それは、閉じた空間を作り、場所と場所の間に都市の隙間がごく普通に見られる風景を作った。この隙間は、場所と場所の間が無関心となった結果である。私は、この都市の輪郭を和らげ、建築同士を反応させる都市の再構成を考えた。

既存の壁を70cmに分け、ずらしながら空間を再構成させ内部と外部という明快な二つの機能空間をほどこ。この家具のようなスケールの壁の集合は、視点の位置や角度、壁の重なり具合で、内部空間とその周りに拡がる外部空間とが一体的な空間として現れる。無駄な隙間から意味のある隙間へ、都市を反応させていく。



講評 物と建物との隙間を「意味ある隙間」として再構成するため、建物外壁を高さ700mmごとにずらして再積層するデザイン手法を展開し、密集街区に相応しいスケール感と賑わいを創出しようとする街区再生提案である。あえて既存外壁を再利用することによって、都市の文脈や時間軸を継承するという姿勢を示しており、古い街並みを簡単に壊し経済効率優先の高層建築を建てる再開発に真向から異を唱えている。建築デザインによって魅力的な都市を再構築することができるんだという、建築の可能性を示唆している点が高く評価された。

(審査員：関谷 和則)